

公益社団法人「日本駆け込み寺」

2002年に設立され、性別、年齢、国、宗教、被害者、加害者を問わず、家庭内暴力、ひきこもり、虐待、多重債務、ストーカー被害、自殺など、様々な問題を抱えた人達の相談を受けサポートしている団体である。

千葉さんは奇跡的に無傷であつたが、助手席の友人は帰らぬ人となってしまった。その日のうちに病院から警察に移送。令状を取られ留置所に拘留された。

それから、千葉さんは人の役に立つ為に弁護士を目指したしかし、司法試験に落ち続けに幸運の女神が微笑むことは無かつた

そんな時に「日本駆け込み寺」のスタッフ募集を知る

私は自分が運転する車で事故を起こし友人を死なせてしました

ここで広報と相談員を兼任して働く
千葉龍一さんもまた、波乱万丈の人生を送ったひとりである。

裁判での判決後、自殺も考えた彼は、嘆願書を集め野球部の仲間から
いつの分まで生きろと言われる

このままでは、励ましてくれた仲間や、亡くなつた友の為に申し訳が立たない

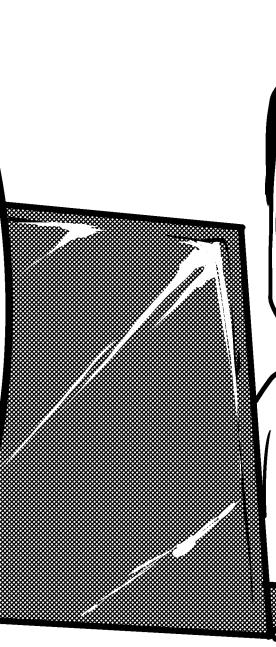
日本駆け込み寺代表
玄秀盛

ええ顔してるやん。
いつから入るんだ。

と言われた

すぐに履歴書を送つて面接、法人代表から

これだ……困っている人達の相談を受け、一人でも多くの人を助けることに繋がるかもしれない……！



3ヶ月の研修期間を経て、
ファンドレイジング担当として採用される

現在

今は
【一般社団法人再チャレンジ支援機構】
という仕事も受け持っています

新宿歌舞伎町
パトロール

再チャレンジ支援機構は
刑務所からの出所者への
サポートを主な活動とした
社団法人である

あくまで主觀ですが、
被害者に謝罪できるのは
加害者しかいません
出所者の再犯率が
再犯率を下げる事に
繋がります
被災者が増える事に
60%といふ事実を
受け止めないと
再犯率を下げる事に
繋がります

再犯率
60%

世間では出所者への
サポートに否定的な意見も
あるが、千葉さんには
強い信念がある



交通事故から10年以上が経った。
裁判の時に誓った月命日の墓参りは
欠かさずに続けている。
事故を起こした自分を許していないし
「一生許すことができない」と感じている



自身が加害者である事、
死にたいという自責の念があつた事。
それらの体験が、
千葉さんを介して多くの人達の
生きる指標になつた

それでも前に進むしかない

どう生きていくかはこれからも一生、
自分に問い合わせていく



彼に救われる人がこれからも増え続ける